

研究発表もうしこみフォーム

氏名：八尾 廣

氏名のローマ字表記：Hiroshi Yatsuo

所属：東京工芸大学

専門分野：建築設計学、建築計画学、都市計画学

発表のタイトル：モンゴル国における社会主義時代の集合住宅の住まいの実態

発表要旨（600字～800字程度）：

モンゴル国では1921年から1990年までの社会主義時代に、旧ソビエト連邦の技術的経済的支援のもと都市計画が策定され、急速に増加した人口の受け皿として、レンガ造、のちに短期間に建設可能なWPC造^注の標準型集合住宅が都市部全域に数多く建設された。これらは現在も多くが取り壊されることなく使用されている。民主化以降、ウランバートルでは民間の集合住宅も多く建設され、現在では市の人口150余万人のうち約半数である70余万人が集合住宅に居住している。

モンゴルの都市部では、集合住宅に入居しない人々はゲルと固定式住居バイシンが混在する低層のゲル地区に住む。都市部における「定住」の住まいの系譜としては、ソビエトより輸入され定着した集合住宅と、ゲルとバイシンを併用する土地に定着したゲル地区の住まいのふたつの系譜があるといえる。ゲル地区については、伝統的なゲル住まいの影響のもと独自に定着した現代モンゴル独自の定住の一形態であることが本研究の過去の調査により明らかとなってきた。一方、ソビエトの技術者が計画し、いわば輸入される形でモンゴルに根付いた集合住宅においては、モンゴルの人々はどのように住んでいるのだろうか。本研究では、2019年に集合住宅内部の住まいについて、実測調査およびヒアリング調査に基づく住まい方の把握を行った。また、新公文書館に社会主義時代の集合住宅の詳細な計画図や実施設計図の多くが所蔵されていることが判明し、一部入手した資料から、間取りと設計意図を読み取る試みを行なった。さらに、設計図面と同年代に竣工した集合住宅の現況図面を比較しつつ、モンゴルの人々が、集合住宅をどのように住みこなし、間取りや住居の部分をどのように変更し住んでいるのかを分析した。

本発表では、モンゴルの集合住宅の住まいの現状について、社会主義時代の設計図面との比較を行い、ゲル地区の住まいとの類似性・差異性についても抽出しながら、現代モンゴル国における都市定住とは何かについて考察してみたい。

（注：WPC造とは、壁式プレキャストコンクリート造のことをいう。）